

令和3年1月20日

1月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では12月初旬から好天が続き、原木生産、各共販所への入荷は順調である。スギ柱材に落ち着きが見え始め、中目材とともに弱保合。ヒノキ材は絶対量が少ないため、柱材は強保合、中目材は保合となっている。先行きヒノキ材は高値安定が続くものと見られる。なお、昨年(令和2年)の栃木県森連の共販実績は166,783 m³(前年比97%)、平均単価11,190円/m³(同101%)である。

群馬でも積雪の影響はなく、原木入荷は順調。製材工場の原木在庫も増加傾向にあるが、例年の約半分である。受注は増えているが、依然として細かい注文が多い。過剰木材対策の補助金等に使用する材料の注文が多い。米マツ製品の品不足の影響で割物類、仮筋交、筋交類の不足が深刻化している。ヒノキも土台角を中心に全体的に少ない。製品価格は低位安定だが、スギ、ヒノキ製品ともに2,000円/m³程度の値上がり。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は徐々に本格稼働に近づいているが、在庫積み上げまでには至っていない。米国では堅調な製材品需要を背景に製材工場の原木集荷は活発である。一方、森林火災による被害材のサルベージ伐採が本格化しており、出材自体は潤沢である。米国・カナダの港頭在庫は低水準ながら輸出需要に見合った供給は行われている。米マツIS級並の1月積み対日輸出価格(推定)は\$960の横ばい推移。米国の製材品市況は9月最終週に反落したが、11月中旬から再び上昇しており、昨年9月の最高値に迫りつつある。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(1/8)は\$933/M。現地製材品価格の上昇に歯止めがかからず、数年前の日本側が資材を購入できなかった状況に類似している。

11月原木入荷量は151千m³、1~11月累計で1,697千m³(前年同期比22.0%減)。カナダの前年同期比69%減に対し、米国は5.2%増。出荷量は165千m³、1~11月累計で1,705千m³(同22.1%減)。在庫量は減少し170千m³、在庫率は1.13ヵ月。東京木材埠頭の12月入荷は14千m³(前月比3.0%増)、出荷は16千m³(同6.2%増)、在庫は21千m³(同5.7%減)。米国の製材大手の対日向け供給の一時停止の発表に伴い、引き合いが増加し、国内米材製材最

大手が昨年12月に値上げを発表した。製材品の荷動きは旺盛であるが、これも1月一杯だと見られる。

3. 南洋材

サラワク州では雨期の真っ只中だが、12月中旬以降、降雨が小康状態となり、原木在庫は一段落した。インド向けの引き合いが好調でFOB価格は\$10~30/m³の上昇。インド国内では在庫が落ち着き、今月で価格はピークを迎えるだろう。PNGでは北側海岸が雨期により原木生産は低調。中国からの引き合いがやや活発になり、FOB価格も反発。供給はタイトな状況が続くだろう。1月予想の原木入荷量3千m³、出荷量3千m³、在庫量は11千m³、製材品入荷量は27千m³。マレーシア、インドネシアからのコンテナ不足により運賃は上昇中。

4. 北洋材

産地では本来なら、冬伐り原木の入荷で本格的な製材生産となるが、新型コロナの影響が大きく生産量は増加していない。シベリア・極東とも中国向けは好調である。世界的なコンテナ不足で運賃が上昇し、また輸送期間が長くなっており、国内市況に影響している。アカマツ野縁製品の対日向け価格は急上昇しており、再び警戒水域に戻る勢いである。アカマツ原板も12月、1月、2月積みと先に行くほど値上げ決着となった。国内製材工場ではコンテナ不足による入荷遅れが懸念材料となっている。米マツ小割の代替で一般ルートからの引き合いが急増しており、注文に応えきれない状況。一方DIY向けは冷静な動き。現地挽きアカマツ野縁製品は上級から下級グレードまでの流通在庫が不足しており、東京木材埠頭の在庫はガラガラの状況である。港頭在庫の枯渇でオフアーには値段を問わず飛びつく小パニック状態にある。1月予想の原木入荷・出荷量とも1千m³、在庫量は13千m³。製品は入荷量(東京+川崎)11千m³、出荷量11千m³、在庫量30千m³。

5. 合板

合板用の国産材原木は各工場の在庫が少ない上に、積雪の影響で出材は減少している。ロシア材は少量での取引となっており、大きな変化はない。米材は価格横ばいで出材も安定してきている。南洋材は現地の悪天候が続いているが、今のところ大きな影響はない。

11月の国内合板生産量は27.2万m³、うち針葉樹合板は26.3万m³、出荷量は26.8万m³で在庫量は11.2万m³となり、うち構造用合板の在庫は9.2万m³と減少が続いている。針葉樹合板はメーカー在庫が少なく、トラック不足により納期に時間を要している。価格も値戻しが進んでいる。先行き価格も引

き締まっていくものとみられる。輸入合板はほとんどの品目で品薄感が強く、タイトな状況が続いている。11月の合板輸入量は15.6万m³と二番目に少ない輸入量となった。インドネシア・マレーシアともに平均を大きく下回っている。インドネシアでは天候不順などで原木の不足感が出ている。各国からの受注が回復しており価格も強含み。マレーシアでも原木の不足感が強く、価格も強含みになっている。

6. 構造用集成材

12月のラミナ入荷は通常通りで1月、2月も同様の見通しである。ただし中国とアメリカ間でのコンテナ需要の増加が継続しており、コンテナ不足は解消されていない。ラミナの第1・四半期交渉がまとまり、前回は20~30ユーロ/m³の値上げとなった。昨年の第4・四半期交渉分から値上げが進んでおり、年明け入港分から輸入コスト増になっている。輸入集成材の第1・四半期交渉もまとまり、ラミナ同様に値上げの提示となった。昨年の夏場をピークに輸入集成材の在庫は減少しており、国内完成品とともに品薄感が出てきている。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷は例年並みである。解体材の入荷は新型コロナの影響による発生量の減少、大型バイオマス発電所の稼働等によりタイト感が非常に強い。製紙用チップの消費量は全般的に回復傾向にある。燃料用チップは年末年始の在庫積み増し、冬場の燃料使用の増加のため、消費量は増加傾向にある。製紙用は工場毎で在庫量にバラツキがある。燃料用は減少傾向にあり、年始年末のタイト感が非常に強い。

8. 市売問屋

国産材構造材は原木不足と大雪の影響で材が少なくなっているが、市場流通では値上げまでに至っていない。外材構造材も入荷が少ないが、手当てする材木店は少ない。造作材も荷動きは悪い。米マツ、欧州材、ロシア材の在庫が減少しているため、問屋間での動きは活発だが、材木店は静かな動きである。

9. 小売

スギ構造材では入荷量の少ない品目が出てきており、柱角は急な値戻しとなった。ヒノキ構造材も柱角、梁などは強含み。輸入材は新型コロナやコンテナ不足の影響が出ており、材の手配に苦労している。米マツ梁、土台角は先行き不透明で米ツガへのシフトが進むと予想される。入荷量も少なく価格は強保合。米ツガ国内挽きの36×45、45×45などの3m材に品薄感があり、手当てに苦労している。欧州材、間柱材にも品薄感がある。ロシア材の上級材や3m材にやや品薄感が見られるものの全体には変動はない。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
南洋材	丸太	↘	↘	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↗	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
		//	10.5×10.5×2.98m	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
	欧州産	//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
		//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→